平成26年3月27日

上ノ国町議会議長
若　狭　大四郎　　様

氏　　名　　佐　藤　正　平　　印

平成２５年度政務活動費に係る収支報告について

上ノ国町議会政務活動費の交付に関する条例第８条第１項 ~~(第２項)~~ に基づき、別紙のとおり平成２５年度政務活動費収支報告書を提出します。

別紙2

政務活動報告書

別紙の通りです。

注）1　政務活動名には、実施した活動名を記載する。
（例～○○調査研究、○○研修、○○広報・広聴、○○会議など）
2　政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。

政務活動を終えて

佐　藤　正　平

今回は、秋田県水産振興センター、大潟村あきたこまち生産者協会、及びなまはげ館を調査いたしました。（日程表添付済み）

その結果を報告致します。

本道よりも本州方面の産業、歴史等の重さが感じられる。当り前だと言われば至極当然のことです。北海道の開拓歴史は、わずか百五十余年に過ぎません、それを五百年、千年以上の歴史をもつ本州と比べても、しょうがないことでしょう。しかしながら、北海道にも新しい産業発展が邁進して居ります。

（１）秋田県水産振興センター
（平成２６年２月１２日水曜日）

同センターの中村所長及び山田資源部長の説明を受けました。その後魚介類の種苗放流試験棟、管理棟、貯水層等見学致しました。水産振興センターの目的は県内の海や川の生物資源を将来にわたり持続的に利用していくための試験研究を行っています。更には漁業者自ら、ハタハタ、アワビ等の資源保護に取り組んでいる。秋田県農林水産試験研究機関として、これからの試験研究の基本方針を立てて、海面等の調査を行い、県内水産業の振興に努めて居ります。明治３３に水産試験場設立許可され、伝統の深い水産試験場であります。又同センター所属の調査指導船千秋丸で海面を調査し、その結果によりどの

ような魚が適しているのか、調査に当って居ります。

春は　サクラマス、マダイ、セリイカ
夏は　シロギス、マアジ、イワガキ、スズキ
秋は　ブリ、サワラ、ヒラメ、アカムツ
冬は　ハタハタ、ホッケ、マダラ、エビ

更に流通している水産物は魚類で約１２０種その他、エビ、カニ、タコ、貝類、海草類等含むと２００種以上が食べられます。四季折り折りの美味しい時期に食べるのが旬の魚であります。

（２）なまはげ館

（平成２６年２月１３日木曜日）

同館は、国指定重要無形民族文化財に指定されており、なまはげの衣装はワラ細工や地域の食材を使った保存食作りなど、男鹿の生活文化を、地元の人人とコミュニケーションをとりながら見たり聞いたり、実際に体験したりできる施設であります。その付近には、真山神社があり、古社で平安時代に建てられました。なまはげのゆかりの地として、神社の境内では毎年２月第２金、土、日にはなまはげ祭りが行われることは、全国的に知られて居ります。

（３）大潟村あきたこまち生産者協会
（平成２６年２月１３日木曜日）

同協会の涌井徹社長から、説明を受けました

目的は、協会の生産者会員が生産した、米を主食及びビタミン強化米、きりたんぽ、ぼたもち、米めん等に加工し、産食、インターネット販売、また業務用として量販店、生協等が各営業所を通じて全国展開で販売を行っている。又米紛用米を利用した小麦アレルギーを対応米めん、米キャメル、米アイス、米ジャム等の新商品を開発し、米加工品の生産加工、販売を一本化した事業を全国展開することにより、米紛食文化の普及と食料自給率の向上を進めていることであります。

安心な原料である米を使用している。農薬の使用を制限し、環境保全米です。

環境保全米とは、生産者が農薬や化学肥料をできるだけ小なくして田んぼの環境をよくすること、消費者を応援して、環境を守る田んぼを増やして言うとする事です。更には、アルコールゼロで無添加だから、子供にも安心です。米と米紛だけの昔ながらの制法で造っているので、老若男女どなたでも、楽しめます。又同センターでは、第６次産業化事業に取り組んでおります。６次産業とは、水稲、大豆、野菜等を栽培し、これらを原材料として生産、加工、販売することです。

本町においても、農漁業で食える町を目指しているので、この目標に向かって、知恵を出し合い、微力ながらも、邁進致します。

（6終り）

十和田市ニンニク栽培販売調査

３月２４日、生産量日本一のニンニク栽培その販売方法について、十和田市役所、農林部、とわた産品販売戦略課、本間課長、平舘課長補佐、及び議会事務局下久保主任主査と約１時間の説明をうけました。十和田市産業の基幹的位置付けにある農業は、農産物価格の低迷による農家所得の減少、後継者不足、更には、国際競争力の確保等多くの課題を抱えており、これらを取り巻く情勢は一段と厳しさを増しつつあります。そのためには、加工、販売への取り組みを強化して産品への付加価値を向上させること、また農商工連携や第６次産業化への取り組みの推進が重要な課題がある。

そこで、十和田市では、生産される農畜産物等について、その高付加価値化を図りながら生産から販売、流通までを結びつけ、安全。安心な、十和田産品の販売促進の強化をすすめ、農家所得の向上を目指し、持続可能な農畜産業の振興を図るため、平成２２年４月に十和田産品販売戦略室を設置。より一層効果的な販売戦略を展開するため、平成２５年４月にとわた産品販売戦歴課を設置した。私は、説明を受け、当町と全く同様な点があ。と思いました。しかしながら、このままの姿で良いのでしょうか。私は、本町においては、休遊農地が相当あり、その活用方法を真剣に取り組んでいく決心を持って居ります。

秋田県水産振興センター　（平成２６年２月１２日）

なまはげ館　（平成２６年２月１３日）

大潟村あきた生産者協会（平成２６年２月１３日）